



第9号

# 岡津の翼

令和2年11月30日  
横浜市立岡津中学校  
校長 廣 渕 徹 志  
同校 学校だより担当

Let's continue to challenge ourselves !

副校長 西田 貴雄

冬の到来をいっそう間近に感じる季節となりました。来週からは、いよいよ、いそがしく時計の動く師走となります。先月の学校行事では、岡津中飛躍祭が行われました。1日目には、学校で映像による部活発表や、文化祭実行委員によるクラスチャレンジ企画が実施されました。そして、2日目には、「横浜みなとみらいホール」で合唱コンクールが行われました。例年とは違ったスタイルで、学年ごとの発表となりました。この文化祭が新たなスタイルとして、来年度以降にも引き継がれ、「With コロナ」を考えた新たな岡津中学校の文化となることもあるかと思えます。これからも新しい生活様式を考え、準備し、実践していくことが必要になります。来年度の生徒の皆さんの活躍に期待しています。



この新しいスタイルは、我々の身近な部分だけでなく、様々な分野でも考えられています。そして、コロナ禍においても、新記録が多々更新されています。

例えば、映画の分野では、アニメ映画「劇場版『鬼滅の刃（やいば）』無限列車編」の興行収入が、公開した16日から25日までの10日間で興行収入100億円を突破したようです。日本の上映作品では、史上最速といえます。この記録には製作者だけでなく、上映者、鑑賞者の力もあると感じます。ある映画館は、鑑賞者の人数を減らし、主人公の羽織の模様である「市松模様」で着席を求めました。また、鑑賞者は、指定された席への着座やマスクの着用、食事については禁止を求められることもあります。この部分についても加味され、新たな記録が樹立されたと思います。また、スポーツの分野では野球界より、福岡ソフトバンクホークスの周東佑京内野手の今季50個目の盗塁や13試合連続成功したことがプロ野球新記録の樹立となりました。2019シーズンのプロ野球の試合数は、リーグ内の試合とセ・リーグ、パ・リーグ交流戦をあわせ143試合でした。しかし、2020シーズンは、コロナ禍において120試合に減少した中での快挙となったようです。

このように、コロナ禍における、新たな生活様式を構築していく中で、様々な新記録の樹立は、私たちに希望を与えてくれました。このように、今までの形にとらわれず、新たな一面を探していく中でこれまで以上の力が発揮できる可能性があるのです。新たな岡中の未来と皆さんの「夢」や「希望」に期待しましょう。

## コロナ禍での卒業生の頑張り！

11月22日、第40回全日本実業団対抗女子駅伝（クイーンズ駅伝）が宮城県の松島町文化観光交流館前から弘進ゴムアスリートパーク仙台までの6区間（42.195キロ）で行われました。神奈川からはパナソニック（21年連続32度目）が出場し、前は3位で3連覇を逃したものの上位争いをして実力を示しましたが、今回はエース格の選手のけがでベストメンバーを組めない分、若手ランナーを中心に奮起し総合力を高め、コロナ禍の逆境をはね返し晴れ舞台に挑みました。本校卒業生の「信櫻 空さん」も2区（3.3 km）に出場しました。



信櫻さんは本校在学中、陸上競技部に所属し、全国都道府県女子駅伝の中学生区間に出場するなどを活躍し、川崎市立橘高等学校に進学しました。高校生の時は2年連続でインターハイに出場し、昨年度は1500mで7位入賞、茨城国体では少年女子A3000mで日本人トップの5位入賞を果たし、活躍しました。今年の春、高校を卒業し、パナソニックに入社したばかりでの出場となりました。

本人は、希望を抱いて足を踏み入れたこの春は、コロナ禍のあおりで入社式も流れ、環境が一変する寮生活で、同期のメンバーもいなく、心細さはあったはずですが、「あまり気にせず、不安もそれほどなかった」と振り返っています。活動休止中は体幹などを鍛える基礎トレーニングに時間を費やし、大きなけがもなく目に見える成長曲線を描いてきたようです。監督は「自己分析をしながら、自分の思ったことを自分の言葉で説明できる」と評価しています。それはどの競技でもトップを目指すために必要不可欠な要素だろうと思います。

今年度のパナソニックはベストメンバーが組めない状況で、1区は12位のワコーレとタイム差なしの11位と出遅れ、2区の信櫻さんに襷が渡り、懸命な走りはさらに成長した姿を見せてくれました。タイム差なしの12位で3区に襷を渡すことになりましたが、その後、総合力と粘り強いレースで7位に食い込み、8位以内に与えられる次回シード権を死守しました。

～ 皆さんにも身につけてほしい力 ～

自己分析をしながら、自分の思ったことを自分の言葉で説明できる！

- ◆ 自己分析とは、自分のこれまでの経験や思考を整理し、自分の能力や性質、強みや弱み、今後のありたい姿などを理解することです。

例えば、自分の象徴的な経験として「〇〇部で頑張った」ことがあるとします。〇〇部においてどんな成果を出したのか、成果を出すためにコロナ禍で限られた活動の中、どのような考えを持って、どのような活動をしたのか。あるいは〇〇部で頑張ることができたのは何故なのか、活動から学んだことは何なのか、挫折したことは何か、などを整理することです。



華道部：祝田和奏さんの作品

## 泉区個別支援学級合同ミニ体育祭

11月16日（月）に泉が丘中学校グラウンドにおいて、泉区8校の個別支援学級合同ミニ体育祭が実施されました。本来であれば、9月30日に例年と同じ会場の三ツ沢競技場で「横浜市立中学校・義務教育学校個別支援学級第60回合同体育祭」が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染の拡大防止のために中止となりました。泉区では生徒の日常の体育的学習の成果を発揮できる場を設けて、運動に対する自信と喜びを経験させよう

と区単位でミニ体育祭を実施しました。晴天の下『走って、投げて、パワー全開』というスローガン通り、みんな笑顔で、全力で自分の力を発揮しました。



混合リレーでの見事なバトンパス



< 混合リレー > 第1位 46" 32

第1走者：山本英汰さん 第2走者：山中美樹さん

第3走者：太田琉斗さん 第4走者：阿部凌駕さん

< 女子ハンドボール投げ >

第1位： 山中美樹さん 17m

< 2年男子50m走 >

第2位： 阿部凌駕さん 7" 40

第3位： 太田琉斗さん 7" 60

< 1年男子50m走 >

第3位： 道免拓海 8" 10

< 2年女子50m走 >

第3位： 石橋知瑛 9" 00

リレーでの見事なスタートダッシュ



## 人権週間



12月10日は1948年に国際連合第3回総会において世界人権宣言が採択された日です。この日を『人権デー』としています。さらに日本においては、毎年12月10日を最終日とする1週間を「人権週間」と定めています。

「人権」とは、一人ひとりが生まれた時から持っている「自分らしく生きる」権利のことです。権利というと少し難しいですが、つまりは、みんな生まれたときから「自分らしく生きて良いですよ」とされているのです。

みんながみんな違うように、全部が同じ人なんて誰もいません。一人ひとりの違いを認めたり、自分や友だちの良いところを見つけて、それぞれが大切な存在であることを知る大切な一週間です。

## いじめ防止啓発月間

いよいよ12月、師走・・・今年も残すところあと1ヵ月になりました。12月を「横浜市いじめ防止啓発月間」とし、全市的にいじめ防止の啓発を図っています。

- のぼり旗の活用
- いじめ防止啓発ポスターの掲示
- 市営地下鉄の車両情報装置による広告掲示
- 「いじめ防止啓発月間スタートイベント」の開催  
12月7日（月）14:00～15:30  
（横浜市役所1階 アトリウム）  
テーマ：「つながり」は ともに  
いじめを乗り越える力になる  
～ 子どもにできること 大人にできることみんなにできること ～

- ・ 「いじめ防止に向けた提言」の発信
- ・ 「横浜子ども会議」の取組報告
- ・ パネルディスカッション： 「いじめに向けた提言」を踏まえて、

考えること・できること

などを実施します。本校でも横浜子どもアクションを入れた「のぼり」の設置や「いじめ解決のための生活アンケート」の実施、全校生徒で「人権標語づくり」に取り組めます。



## お知らせ

- |                    |           |
|--------------------|-----------|
| 1. 3年生進路面談         | 12月 3～9日  |
| 2. 1, 2年生個人面談      | 12月 3～9日  |
| 3. 人権週間（人権デー12/10） | 12月4～10日  |
| 4. 特別清掃（ジャージ登校）    | 12月24日（木） |
| 5. 2学期終業式          | 12月25日（金） |



華道部：五浦瑩乃さんの作品

### ～ 学校における新型コロナウイルス感染症対策の考えについて ～

横浜市教育委員会から11月26日付で、「横浜市立学校の教育活動の再開に関するガイドラインの改訂」が行われました。このガイドラインにもとづいて、本校の教育活動を行います。全国的に感染の「第3波」が発生し、横浜市内でも厳しい状況となっています。それに伴い学校においても陽性者が多くなっている状況です。そのため、ガイドラインの内容も現時点の対応であり、今後の状況如何によっては、厳しい制限を設ける内容になる可能性があることをご留意ください。

また、児童生徒の感染については、家庭内での感染が多くを占めており、学校での感染拡大を防ぐには各家庭における健康観察を基本とした学校と家庭との連携・協力が不可欠です。学校での感染予防対策や生徒への注意喚起も今一度徹底しますので、ご家庭での検温・健康観察の徹底をよろしくお願いいたします。